

執政（しっせい）直江兼続屋敷跡

福島県会津若松市山鹿町

「水波能女神」は清水の神で、付近にあった清水2カ所（直江清水など）に対して、明治時代に建てられた石碑をこの場所に移したものです。



直江兼続は、秋田藩の『佐竹文書』慶長5年8月3日の記録に、大沼郡の奉行山田喜衛門に対し、屋敷普請は無用と指示している。屋敷は、当時の若松城大手口正面に位置し、東側に建てられ「兼続の装束屋敷」とも呼ばれ兼続が身支度に気を使っていたことも分かります。兼続の前には、蒲生秀行家臣町野長門守の屋敷で、屋敷内には「直江清水」が明治時代までありました。

兼続の屋敷は、『会津鑑』にある保科正之時代には六十間半・一町四方（約109メートル）あり、面積は約3300坪～3600坪ありました。
文責・写真 石田明夫

直江兼続の屋敷跡は、現在会津若松市中央公民館（元学鳳高校）の交差点を挟んだ西側に位置しています。その場所は、忠臣蔵で知られる赤穂藩に兵学を教えた山鹿素行の生誕地（蒲生忠郷時代に町野家の屋敷で生まれる）でもあります。

現在の屋敷跡



直江兼続屋敷跡

